



全日写連大阪府本部 秋の撮影会

「なら」を写そう

広大な奈良公園が今回の舞台です。支部会員やお友達と誘い合わせて撮影会にご参加いただき、ひとあじ違った町の風景や歴史・自然をあなたの感性で写し止めてください。

当日は2コースの内、好きなコースを選んで撮影を行っていただきます。コンテスト応募作品はその日のものに限りです。いわゆる奈良公園から遠く外れた場所は対象外です。

<撮影会要項>

日時 2023年11月23日(祝)

撮影地 奈良公園のAまたはBのコース

(Aコース) 高畑やならまち等の町歩き

集合場所 (高畑の破石町^{わりいし}バス停)

(Bコース) 市街地外周を巡る

正倉院→二月堂→春日大社→春日原生林

集合場所 (東大寺南大門前)

(集合場所へはJRまたは近鉄奈良駅から市内循環バスに乗ると便利。近鉄奈良駅前には案内の委員もいます)

集合時間 10時 AまたはBそれぞれの集合場所にお越しください。

参加費 無料

当日に集合場所で地図やコンテスト応募用郵便振込用紙をお渡しします。

<コンテスト>

応募締切日 12月22日(当日消印有効)

応募点数・サイズ 1人5点以内

単写真はA4、組写真はA4写真4枚以内

を裏面からテープでつなぎ折りたたむ。

応募料 会員 1,000円 一般 2,000円

ゆうちょ銀行からの振込みでお願いします。

作品 合成や変形等事実を改変した作品は不可

応募先 〒530-0005 大阪市北区中之島2-3-18

中之島フェスティバルタワー15階

全日写連大阪府本部「秋の撮影会」係

(詳細はチラシまたはホームページを参照)

バス 冬の撮影会

— 街道の”今庄”と海運の

”三国湊” ～雪景色～ —

<参加者募集>

北陸街道の要地として古くから栄えた宿場町の『今庄』と日本海交易の拠点として江戸時代には北前船の寄港地として栄えた『三国湊』に日帰りバス撮影会を行います。

午前は、「雪国」北陸の中でも屈指の豪雪地で、北陸街道の要地として古くから栄えた宿場町『今庄』に向かいます。一步路地裏に足を踏み入るとタイムスリップした世界を見ることができます。

午後からは、日本海交易の拠点として江戸時代には北前船の寄港地として栄えた『三国湊』に向かいます。豪商の面影や情緒あるレトロな町並みは歴史と魅力が溢れています。

冬の1日をお楽しみいただけるでしょう。

詳細については同封のチラシをご覧ください。

大阪府本部 SNS プチ撮影会

○第2回「京都祇園あと祭りを撮ろう」

7月22日(土)、会員21名と本部委員5名が午後4時に烏丸に集合して、祇園あと祭りを撮影してきました。

天気も良く暑い日でしたが陽が落ちる頃は幾分ましになり、シャッターを押す回数も増えました。

雅なお祭りをカメラに収めた後は、乾いたのどを潤すために有志が中華料理のお店に再集合して写真談議に盛り上がりました。

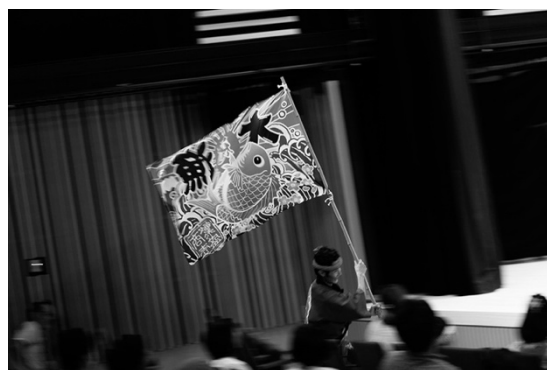


○第3回「郷土芸能を撮ろう」

7月29日(土)、天理市のなら歴史芸術文化村ホールにて、郷土芸能の舞台を撮影してきました。

電車でのアクセスが悪いためか参加者は委員を含め9名と少なめでしたが、寺子屋ファミリーの気合のこもった発表にシャッターを押す指にも力が入りました。

中には慣れない舞台撮影に苦戦されたかもしれませんが、それも良い経験として次に生かされることでしょう。



大阪府本部委員 鈴木一彦

写真展のご案内

フォト わかば写真展

11月17日(金)～11月23日(木)
富士フィルムフォトサロン大阪

第1回フロウ20作品展

11月22日(水)～11月26日(日)
東大阪市本庁舎内 22階市民ギャラリー

第1回アマテラス写真展

11月28日(火)～12月3日(日)
江之子島文化芸術創造センター

夏の撮影会コンテスト 審査結果発表

「夏の撮影会」を、7月6日、岡山県高梁市吹屋ふるさと村で行いました。

吹屋ふるさと村は標高500mの高原に位置し、赤銅色の石州瓦や弁柄色の古い家が軒を連ねる赤い町並みで、訪問者を古き時代にタイムスリップさせてくれます。

参加者は、その独特な空間を会心の一枚に切り取っていました。

<審査委員長総評>

今回の夏の撮影会は高梁市吹屋ふるさと村でした。個人的には中々行けない遠方の撮影地ですので、参加された方も大いに期待されていたと思います。撮影時間も短い中、其々の視点で銅山とベンガラで栄えた古い赤い町並みや旧吹屋小学校を撮り、応募されています。

当初は単写真のみの応募でしたが、撮影地から見て組写真も可としました。それにより、入賞作品も組写真が多くなりました。

組写真は特に物語性が問われますので、タイトルを重視しました。今回は、彩度を上げ過ぎた作品は少なく、時代を感じさせる落ち着いたプリントに仕上げた作品が多く見られました。

これからも、ご自身の五感で感じた被写体を撮り、その時の感動を、素直にプリントに仕上げるよう心掛けてください。

又、見る人に共感を呼ぶような適切なタイトルを付けて応募してください。

審査員：水谷八重子（委員長）、吉田義隆、
山田紀美子、高橋憲一

- 推薦 「ベンガラ色に映える」（組写真）
藤本幸男（堺市）
- 特選 「郷愁」（組写真）
山本弘美（守口市）
- 準特選 「我が物顔で出現」
汐崎俊夫（守口市）
「いにしへの里に住む」（組写真）
樽本節子（大阪市）
- 入選 「ベンガラの街」（組写真） 斎藤 貴（大

阪市）/「風情ある中庭」（組写真） 荒川惣平（吹田市）/「築144年の風格」（組写真） 中村誠司（吹田市）/「ベンガラの町」（組写真） 筒井利枝子（吹田市）/「見守ってね」 尾林茂昭（高槻市）

読者の広場

<写団清朋作品展>

【富田林支部 大平敦子 チン電走る】



路面電車は人々の生活の日常にあり見るだけで心ほのぼのする。

早や60有余年前通学ではお世話になった上町線。この日はその間を徒歩で初乗りは「松虫」、光線を思いながら「我孫子道」「宿院」「綾ノ町」「大和川」と阪堺線を乗り継いだ。

乗客も多く降りれば電車に行き交う人の距離が近い。一体だ。その場面を写し撮りたいと思った。「大和川」駅での一瞬の一枚。いつまでも残ってほしい風景です。

コロナ禍の怠け心に負けて里暮らしの日々、一念発起して出かけたのが心躍る日となりました。

<写団清朋作品展>

【アール梅田 渡壁孝子 夕映え】



大阪市鶴見区の鶴見緑地公園は、自転車では20分～30分で行ける距離にあります。

コロナが猛威を振るう毎日、運動不足を兼ねて散歩に出かけて行きます。

風車の丘の花を見ながら山を一周するコースですが、その日も風車の丘をいつものように散歩していると、ふと反対方向にオレンジ色のコキア草が夕陽を浴びてキラキラと輝いて見えました。

思わずシャッターを切った何枚かの1枚です。

コキア草（ほうき草）は昔、コキアの枝をほうきに使用したことから付けられた名前です。

コキア草は緑から段々と季節が進むとオレンジ色に変わっていきます。鮮やかな緑をした葉っぱが秋になると紅葉する様子が美しく庭園や広場を彩ってくれる植物です。



<枚方写真クラブ展>

【枚方写真クラブ 小峠和子 夢の小径】

初秋の空もさわやかな季節の昼下がりに、万博公園のコスモス畑を散策していましたが、母親と小さな子供さんが仲むつまじく歩かれています。

「僕ちゃん、大人になってもこんな夢のようなステキな日があったことを思い出してね～」と心でつぶやきながらソフトフィルターをかけ撮った一枚です。

「全日本お城写真コンテスト 2023」 <審査結果>

147人、457点の応募がありました。
大阪府在住会員の入賞者

<ハクバ賞 化粧仕上げ 山形城>
【木下修二 大阪市】



<エツミ賞 春・都市遠望 大阪城>
【井上秀昭 守口市】



○全日写連大阪府本部ホームページ



全日本写真連盟 大阪府本部事務局

〒530-0005 大阪市北区中之島 2-3-18

中之島フェスティバルタワー15F

Tel 06-6201-8006 Fax 06-6201-0285

メール: nissyaren@osaka.email.ne.jp